

科目番号	B-16	科目名	総合医療論
対象学年	3学年	実務経験	有
担当講師	院内講師	単位(時間数)	1単位(15時間)
開講学期	前期		
科目の目的	現代の我が国の医療の場で生じている具体的事例をとおして生命倫理の考え方、アプローチの仕方について理解できる。		
<p><授業の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の原点とその歴史 2. 現代医療のシステムと現状 3. 患者の立場 4. 医療の新しい領域と望ましい医療 			
関連既習科目	看護学概論		
テキスト	系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 医療と看護の原点 第2回 医療の歩みと医療観の変遷 第3回 私たちの生活と医療 第4回 技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題 第5回 成熟する社会と人々の意識改革 第6回 医療を見つめなおす新しい視点 第7回 健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流</p>			
評価方法	筆記試験		
科目認定	成績計上の算定割合：100点		
備考	<p>21世紀に入り医療は大きく変貌を遂げようとしている。少子高齢社会、新興感染症の出現、テロの脅威など考えもしなかった問題に直面している。そのため安心して受けられる医療、EBMにもとづいた治療、死を迎えるときの医療のあり方など、これからは考える医療が求められている。答えは一つでないことをふまえ、これらの問題を学習していく。</p>		

科目番号	B-17	科目名	関係法規Ⅰ
対象学年	3学年		医療と法律
担当講師	院内講師	実務経験	有
開講学期	前期	単位(時間数)	1単位(15時間)
科目の目的	医療における法令を理解し、看護職及び関連職種の業務の法的根拠を学習する。		
<p><授業の概要></p> <p>まず、法規の概要について、基本的な概念・用語等について、法に関する基礎的情報と法的な考え方の特色を解説し、法は身近なものであることを学ぶ。その後、医療職として医療現場で直接必要とされる各種の関係法規の概要・基本原則を学んでいく。</p>			
関連既習科目	法学概説、看護学概論		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕 看護学概論 医学書院		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 法律の概念 法律の概念と法の分類 衛生法</p> <p>第2回 看護法 保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律</p> <p>第3～4回 医事法 医療法 医療関係資格法</p> <p>第5回 保健衛生法 共通保健法 分野別保健法 感染症に関する法</p> <p>第6回 社会保険法 医療・介護の費用保障 福祉法 福祉の基盤 児童分野 高齢分野 障害分野 手当</p> <p>第7回 労働法と社会基盤整備 環境法 環境保全の基本法 公害防止の法 自然保護法 看護をめぐる制度と政策〔看護学概論〕 看護サービスと経済のしくみ ―診療報酬と人員配置―</p>			
評価方法	筆記試験		
科目認定	成績計上の算定割合：100点		
備考			

科目番号	B-19	科目名	社会福祉論
対象学年	3学年		
担当講師	院外講師	実務経験	有
開講学期	後期	単位(時間数)	1単位(30時間)
科目の目的	保健・医療・福祉システムの連携、社会資源の活用方法、現代の問題点発生の背景を理解できる。		
<p><授業の概要></p> <p>本授業では、社会福祉とは何かを確認した上で、その支援が必要な人を支えるための社会保障や社会福祉諸制度・法律について現場の事例を踏まえながら理解を深めていく。</p>			
関連既習科目	法学概説、関係法規Ⅰ、看護学概論		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉 医学書院		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 社会福祉の考え方と社会保障の概念</p> <p>第2回 社会保障制度とは</p> <p>第3回 医療保障 医療保険制度 公的負担医療</p> <p>第4～6回 介護保障(介護保険制度)</p> <p>第7回 所得保障 所得保障制度のしくみ 年金保険制度 社会手当</p> <p>第8回 所得保障 労働保険制度(雇用保険制度 労働者災害補償保険)</p> <p>第9回 公的扶助</p> <p>第10回 社会福祉の法制度 社会福祉法と福祉6法</p> <p>第11回 社会福祉 高齢者福祉</p> <p>第12回 社会福祉 障害者福祉</p> <p>第13回 社会福祉 児童家庭福祉</p> <p>第14回 社会福祉実践と医療・看護の連携</p>			
評価方法	出席状況と終了テスト及び授業に取り組む姿勢 (途中、小テストを行ったものも評価に加える)		
科目認定	成績計上の算定割合:100点		
備考	保健医療福祉の連携・協働において看護師はその調整的役割を担います。そこで、社会福祉に関する諸制度や法律を学びながら、隣接領域である社会福祉について一緒に考えていき、臨床に携わった際に活用できるよう授業の中で深めていきましょう。		

科目番号	B-20	科目名	公衆衛生学
対象学年	3学年		
担当講師	院外講師	実務経験	有
開講学期	後期	単位(時間数)	1単位(15時間)
科目の目的	疫学的視点に立って地域の疾病構造・環境問題・保健システムを理解できる。		
<p><授業の概要></p> <p>感染症は、予防施策が大切と認識されます。感染性疾患の現状とその予防について共に考えたい。また、環境の変化により疾病構造が変貌しつつある。この問題も今後大きな問題であり、理解を深めたい。</p>			
関連既習科目	地域保健学、看護学概論		
テキスト	新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生学 メヂカルフレンド		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 公衆衛生の理解 ①健康と公衆衛生 第1章 ②公衆衛生のあゆみ ③公衆衛生の学術基盤</p> <p>第2回 人口と公衆衛生 ①人口の動向と公衆衛生 第2章 ②人口の動向把握に必要な指標 ③人口の動向と公衆衛生</p> <p>第3～4回 環境と公衆衛生 ①人間と生活環境 第3章 ②健康問題と環境 ③環境問題の動向と公衆衛生 ④居住環境についての生活衛生</p> <p>第5回 食と公衆衛生 ①健康づくりと食 第4章 ②健康の維持と食品保健</p> <p>第6回 これまでの復習</p> <p>第7回 疾病の疫学と予防 ①疾病の成立と予防 第5章 ②感染性疾患の疫学と予防</p>			
評価方法	筆記試験		
科目認定	成績計上の算定割合：100点満点		
備考			

科目番号	D-23	科目名	精神看護方法論演習
対象学年	3学年		
担当講師	専任教員	実務経験	有
開講学期	前期	単位(時間数)	1単位(15時間)
科目の目的	精神障害によってもたらされる生活障害をアセスメントし、対象の健康問題の解決能力、判断能力を身につけることができる。		
<p><授業の概要></p> <p>1) 事例を通して看護過程展開のプロセスが理解できる。</p> <p>2) 講義の知識を統合して、文章化することで思考のプロセスを明らかにする。</p> <p>3) 事例を通して看護の方法を具体化していく中で、包括的な看護展開ができる。</p> <p>4) 演習を通して主体的な学習方法を身につける。</p>			
関連既習科目	精神看護学概論、精神病態看護論、精神看護援助論		
テキスト	NANDA-I 看護診断定義と分類 医学書院 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>統合失調症（慢性期）の患者の事例での看護過程の展開</p> <p>第1回：授業概要の説明・事例提示および情報収集 (DVD 視聴)</p> <p>第2回：統合失調症患者の情報収集の視点 (グループワーク・講義)</p> <p>第3～5回：アセスメント（精神障害と生活障害） (グループワーク・講義)</p> <p>第6回：アセスメントの統合（関連図）、看護診断の抽出 看護診断の考え方 (グループワーク・講義)</p> <p>第7～8回：看護計画（人間関係の確立と自立を支える援助）</p>			
評価方法	事前課題および最終課題提出の状況、授業態度等		
科目認定	成績計上の算定割合：100点満点		
備考			

科目番号	E-4	科目名	在宅看護方法論演習
対象学年	3学年		看護過程
担当講師	院外講師	実務経験	有
開講学期	後期	単位(時間数)	1単位(15時間)
科目の目的	看護過程を展開し、療養者及び家族の生活と社会資源を考慮した看護が理解できる		
<p><授業の概要></p> <p>在宅における看護過程は、治療をしながら、障害を持ちながら、住み慣れた自宅などで、自分の意思によって希望する生活を継続できるよう支援することを目的に展開される。療養者の心身の健康状態や家族や介護の状況、暮らし方・価値観・居住地域の状況を考察することが必要である。ここでは在宅療養生活の希望を主に置き、対象の健康レベルおよび発達段階、家族の状況に応じた看護過程の展開について事例を用いて学習する。</p>			
関連既習科目	在宅看護概論、在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ、老年病態看護論、老年看護援助論		
テキスト	専門分野 地域・在宅看護論〔1〕	地域・在宅看護の基盤	医学書院
	専門分野 地域・在宅看護論〔2〕	地域・在宅看護の実践	医学書院
	NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023		医学書院
<p><授業の展開及び内容></p> <p>事例を用いて、情報の整理、アセスメントを行い関連図、必要な看護についてグループで学習を行い、発表する。</p> <p>第1回 (1h) 事例提示 演習の方法の説明</p> <p>第2～3回 (4h) 情報の整理・アセスメント・関連図までのグループワーク</p> <p>第4～5回 (4h) グループワーク発表・意見交換</p> <p>第6回 (2h) 関連図の追加(必要な看護まで考え追加する)のグループワーク</p> <p>第7～8回 (4h) グループワーク発表・意見交換・まとめ</p>			
<p>評価方法</p> <p>課題、グループワークの発表内容、参加姿勢により評価する。</p> <p>評価基準は講義1回目に示す</p>			
<p>科目認定</p> <p>成績計上の算定割合：100点</p>			
備考			

科目番号	E-5	科目名	看護管理
対象学年	3年生		
担当講師	院内講師	実務経験	有
開講学期	前期	単位(時間数)	1単位(30時間)
科目の目的	保健医療福祉システム及び政策医療における看護の役割を理解し、看護管理の意義や看護管理の方法を理解する。また、医療や看護の国際協力とそのしくみを理解する。		
<p><授業の概要></p> <p>医療及び看護は、どのようなしくみで動くのか学習し、その動きの中に見られる組織及び組織に必要なものは何か理解する。また、国際的な視野に立ち医療及び看護を考える。</p>			
関連既習科目	看護学概論		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学 医学書院		
<p><授業の展開及び内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とマネジメント 看護管理学とは 看護におけるマネジメント 2. 看護ケアのマネジメント 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利の尊重 安全管理 チーム医療 看護業務の実践 3. 看護職のキャリアマネジメント キャリアと形成 看護職のキャリア形成 看護専門職としての成長(社会化) タイムマネジメント ストレスマネジメント 4. 看護サービスのマネジメント 看護サービスのマネジメント 組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり 人材のマネジメント 5. マネジメントに必要な知識と技術 マネジメントとは 組織とマネジメント リーダーシップとマネジメント 組織の調整 6. 医療機関の機能分化と地域の連携 地域医療連携 公的病院の役割 国立病院機構が担う役割(政策医療) 7. 看護を取り巻く諸制度 看護の定義 看護職 医療制度 看護政策と制度 			
評価方法	筆記試験 レポート		
科目認定	成績計上の算定割合:100点		
備考			

科目番号	E-6	科目名	災害看護
対象学年	3学年		
担当講師	専任教員	実務経験	有
開講学期	後期	単位(時間数)	1単位(15時間)
科目の目的	災害時の看護活動に参加できる基礎的知識・技術を習得する		
<p><授業の概要></p> <p>災害発生前後に生じる問題及び看護の役割を理解できるよう学習する。そして、災害看護に関心を持ち、災害時の看護活動に参加できる基礎的知識・技術を習得する。</p>			
関連既習科目	看護学概論、基礎看護援助論、在宅看護概論		
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践〔3〕 災害看護学・国際看護学 医学書院		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 1. 災害および災害看護に関する基礎的知識 1) 災害・災害看護の歴史・定義 2) 災害の種類と被害の特徴 3) 災害に関する制度</p> <p>第2回 2. 災害医療の特徴 1) 災害時の医療の考え方・CSCATTT 2) 国内の救助活動の現状と課題 3. 災害サイクルと各期における必要な看護活動 1) 災害サイクルと災害看護サイクル 2) 各期の看護活動の場と必要なケア 4) 災害サイクル急性期の看護 (1) トリアージ (2) 治療 (3) 搬送 (4) START式トリアージの実際</p> <p>第3回 4. 災害サイクル急性期の看護活動における対応(机上シミュレーション) 1) 救護所、各エリアの考え方(グループワーク)</p> <p>第4回 5. 災害とこころのケア(DVD視聴を通して) 1) 被災者のこころのケア</p> <p>第5回 5. 災害とこころのケア 2) 救援者のストレスとこころのケア 6. 海外における災害関係各機関</p> <p>第6回 7. 学生でもできる地域への災害対策支援(グループ活動・学びの共有)</p> <p>第7回 8. 災害シミュレーション(応急処置の実際)</p>			
評価方法	演習の参加状況、課題、授業態度、筆記試験をもとに総合的に評価する		
科目認定	成績計上の算出割合：科目評価計画参照		
備考	<p>近年、全国的に災害が頻発しており、災害看護における看護師の役割の重要性は高まっている。今後とも起こり得る災害に向けていつでも対応できるよう看護師としての役割を理解しておくことが重要である。日頃から看護学生として、地域にも目を向けて災害対策を考えてほしい。</p>		

科目番号	E-7	科目名	看護の統合と実践 I
対象学年	3 学年		看護倫理演習
担当講師	教育主事	実務経験	有
開講学期	後 期	単位(時間数)	1 単位 (30 時間) のうち 15 時間
科目の目的	臨地実習で体験した看護を振り返り、知識・技術・態度の統合を図り、看護実践に必要な倫理的感受性を高め、看護専門職として倫理的な看護実践能力を養う。		
<p><授業の概要></p> <p>医療及び看護の日常の場面にある事例や自分達の体験を踏まえ、倫理的問題に気づくと共に、倫理的視点に基づいた専門職としての対応のあり方について学ぶ。</p>			
関連既習科目	倫理学、看護学概論		
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 その他は、資料を配布		
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1回 倫理学の基本的な考え方 看護の倫理原則 倫理的ジレンマ</p> <p>第2回 看護倫理を学ぶ意義 看護実践上の倫理的概念</p> <p>第3回 看護実践と倫理 ケアの倫理</p> <p>第4回 生命倫理 先端医療と制度をめぐる生命倫理</p> <p>第5回 死の生命倫理と患者の尊厳</p> <p>第6～7回 倫理的問題へのアプローチ及び事例検討</p>			
評価方法	筆記試験 グループワークへの参加状況		
科目認定	成績計上の算定割合：50 点満点 50%		
備 考	<p>看護師が活動する場は多様化しており、看護師個々の倫理的視点がさらに重要となる。</p> <p>1年次に学習した倫理学を想起し、看護師として必要な考え方、倫理的問題へのアプローチの仕方を学んでほしい。</p>		

科目番号	E-8	科目名	看護の統合と実践Ⅱ
対象学年	3学年		
担当講師	専任教員	実務経験	有
	専任教員	実務経験	有
開講学期	前期～後期	単位(時間数)	1単位(30時間)
科目の目的	各看護学で学んだことや臨地実習での経験したことをふり返り、知識、技術、態度の統合を図り、看護実践能力の基礎となる能力を身につける。		
<p><授業の概要></p> <p>看護・医療の臨床現場における事象に目を向け、臨床判断能力の必要性を理解する。また演習や体験を通して多職種協働や連携の必要性について考えていく。また、多重課題業務遂行能力を身につけるための考え方、さらに自己の振り返りを通して、課題を見出す演習である。</p>			
関連既習科目	専門基礎分野、専門分野全般		
テキスト			
<p><授業の展開及び内容></p> <p>第1～4回 複数患者の優先順位を考えた援助計画立案</p> <p>第5～7回 多職種連携演習</p> <p>第8～11回 臨床判断トレーニング</p> <p>第12～15回 看護技術総合的評価</p>			
評価方法	課題レポート、課題演習、授業参加状況、技術評価試験		
科目認定	成績計上の算定割合：科目計画評価参照		
備考	<p>これまで講義や実習で学んできたことを統合する科目です。看護師のように考え、行動できるよう、様々な観点からトレーニングを行います。自ら学び、考え、行動しながら学習を深められることを期待します。</p>		